



イヌはサイレンになると、なぜ遠ぼえするの

イヌの先祖が仲間と遠ぼえをかわしあっていたころの、なごり

イヌやオオカミのように、群れをつくってくらしていた動物は、仲間と連絡をとりあう方法の一つとして、遠ぼえを使っていました。オオカミなどでは、みんなでかりに出かけるときなどのように、仲間をよび集めるときに遠ぼえをします。

遠ぼえを、人間のことばにほんやくすると、「ぼくはここにいるよ。きみもいっしょに仲間に入れよ。」というような意味になります。だれかの遠ぼえに、次々と声を合わせる習性が、野性が強く残っているイヌなどに、ひきつがれている場合があるのです。サイレンになると遠ぼえするのは、サイレンの長くひきのばした音が、仲間の遠ぼえのように思えるのでしょう。長い間、人間に飼いなされ、ペットとして人間によって改良されてきた今では、遠ぼえをするイヌのほうが少ないはずですよ。

遠ぼえは、しかっても、やめさせられない

サイレンや、焼きいも売りの声に合わせてする遠ぼえは、イヌの先祖から受けつがれた習性なので、しかっても、なかなか、なおりません。ただし、近所がめいわくするほど、しょっちゅう、長々と遠ぼえをするのは、イヌがひとりぼっちで、さびしいと感じているときとか、オスイヌが、メスイヌにふられたときなどです。

こんな場合の遠ぼえは、家族みんなでイヌの相手をしてやったりして、さびしいと思わなくさせるなど、解決方法があります。（監修・今泉 忠明）

